

「自分に足りないものは何か」

高校生にとって、夏休みは大きな正念場となる。

自分でコントロールできる時間がいつもより多く持てる。3年生にとっては、集中的に受験勉強ができる、最後の長期休業となる。1、2年生にとっても、いろんな場面で飛躍するためには貴重な時間。部活動や一学期にやり残した学習等自分を育てる絶好の機会である。

この40日は、大きい。そんなことは、誰でもわかっている。夏休み終盤になって、手応えを得るには、事前の目的意識が大切。「何を」「いつまでに」「どれくらい」するのか、明確な目標がなければ、取り敢えず「頑張る」ことに終始する。あるいは、取り敢えず「休む」のかもしれない。そうすると、夏休み中にやっておけばよかったことができていないことに、後から気付く。教員になってからの私の経験からも「夏を制する者は受験を制する。」というのは当たっている。

「やらねばならぬこと」を明確にした「計画立案」の際には、己の学習の進捗状況をつかむこと、自分自身を俯瞰し、なすべきことの全体像をつかむことが大事である。随時修正することも視野に入れつつ、具体的な学習内容を定める。無計画で無目的な学習は、モチベーションも保てないし、達成感も得にくい。何より力が付かない。やはり、自分を見つめて計画を立てることが、伸びるための大前提である。

真偽は定かではないが、人間は追い込まれないとなかなか本気になれないという通説がある。「この惑星の住人は、締め切りがこないと、がんばれない」とつぶやくCMがあるが、このフレーズは、土壇場で力を発揮するのは、誰にでもできる、とも取れる。どこを自分の締め切りと考えるのか、どのタイミングで学習に集中して力を伸ばすのか、そもそも、頑張ったら成績は向上するのか、頑張るっていったいどうすることなのか、そんなことに向き合えるのも夏休みである。計画を立てる時、修正する時、学習を実践する時の参考として、この「夏休みの友」を活用してほしい。併せて、「進路の手引」も見てほしい。そして、自分なりの夏休みの学習スタイルを早い時期に確立してほしい。一日の生活のリズムも大切である。健康的で効率のよいリズム。つまり、長期的計画と一日の生活リズム。これがうまくかみ合うと、集中した学習が習慣化できる。

今年の入学式でも紹介させていただいたが、本校から東京大学工学部に進み、現在はショートショート作家として第一線で活躍している田丸雅智さんは、「松山東高校に入学後、不本意な成績を取ってから、『自分に足りないものは何か』を考え始め、その克服のために思いつく限りのことをする、という挑戦を続け、最終的には学年順位を100番以上伸ばした。」と当時を振り返っている。ソフトテニス部で日焼けした彼は、睡魔と闘いながら授業を受け、面談の時には「絶対にやります。」と目を輝かせていたが、当時「こうすれば成績が伸びて、東京大学に手が届く」というノウハウはまだ持っていなかった。『自分に足りないものは何か』の問いかけに真摯に向き合い、試行錯誤して編み出した、彼なりの学習方法がある。彼も夏をきっかけに伸びた一人である。一段ステップアップすれば、次のステップが見えてくる。とにかくこの夏、かけがえのない夏に、自分の成長や進歩を楽しんでほしい。